

事例④ オフショア開発拠点から海外の開発サーバーへの接続

- 中国国内のオフショア開発拠点から日本にある開発サーバーへ国境を超えて通信を行うにあたり、安定した国際通信環境が必要だった。

【抱えていた課題】

- 中国国内から日本国内の開発サーバーへ常時接続して開発作業を行うため、一般のインターネット経由での接続では通信状態が安定せず、納期遅延を生じるリスクが懸念となっていた。

【採用に至った経緯、ポイント】

- 専用線も検討したが高価であることのほか、プロジェクト開始までに開通が間に合わない点と、長期間の契約を求められるのでプロジェクト終了後もコストが発生し続ける点から採用できないと判断した。
- 縁通のIX-NETは、プロジェクト期間に合わせて契約期間を設定できる点や事前検証により必要な回線容量（通信帯域）を確認し無駄のない契約ができる点を評価した。
- 事前検証を実施して安定した通信ができることを確認できたため、採用を決定した。

【導入効果】

- 安定した通信を行えるようになり、回線問題による納期遅延リスクを回避できた。

【サービス名】

- IX-Router 2Mbps帯域保証（両接続拠点に各々専用Router1台を設置）

